

授業科目 (ナンバリング)	生薬学 I (NC210)			担当教員	宇都 拓洋		
展開方法	講義	単位数	1.5 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
生薬の起源、薬学の歴史的な背景等を学習し、医薬品として生薬が担って来た役割を認識することを目標とする。また、局方収載生薬や麻薬関連生薬のうち約 100 種を選び、基原植物の学名、使用部位、産地、薬効成分、配合漢方薬等の生薬に関する基礎知識を学習し、それらを医療の場で活用出来る知識を習得することを目標とする。							①②⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	(1) 漢方処方における生薬の役割について述べるができる。 (2) 生薬の科名、使用部位、有用成分、薬効等を説明できる				定期試験 確認テスト	80% 20%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・評価は確認試験と定期試験を用いて行う。 ・確認試験は「代表的な生薬の基原、薬用部位、薬効、成分」を範囲とする。 ・全講義時間の 3 分の 1 を超える欠席のあった学生は、定期試験の受験資格を喪失する。 ・確認試験は、各問題の解答をポートフォリオで示すことによりフィードバックする。 							
授業の概要							
まず生薬に関わるバックグラウンドを学習する。続いて生薬各論では植物由来の生薬について使用部位別に学習を進め、それらの基原植物名、学名、使用部位、産地、薬効成分を学ぶ。次に動物、鉱物生薬を学習し、最後に植物由来の医薬品とそれらの基原植物について学習する。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、112.5 分です。							
教科書・参考書							
教科書：「パートナー生薬学 (改訂第 3 版)」竹谷孝一/木内文之/小松かつ子編集、南江堂 参考書：「薬学生・薬剤師のための知っておきたい生薬 100」日本薬学会編、東京化学同人 「カラーグラフィック薬用植物 (第 3 版)」滝戸道夫・指田豊編、廣川書店 指定図書：上記の教科書と同じ							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・予習を行うこと。毎回の講義の終わりに、次回の講義に該当する部分を指示するので、教科書を読んでおくこと。 ・質問は講義後やオフィスアワーに積極的に行ってほしい。 ・薬用植物園や生薬標本も観察し、講義で扱った生薬に対する理解を深めて欲しい。 							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習	到達目標番号*
1	生薬学の基礎①	生薬とは何か 医薬品としての生薬とその特徴 生薬の歴史	p 3～20	
2	生薬学の基礎②	世界における生薬の流通 生薬の基原植物の形態と分類	p 21～36 p 61～70	316, 317, 322-324
3	植物生薬① 花部を用いる生薬	茵陳蒿、紅花、サフラン等の基原植物、薬用部位、 産地、薬効等	p 131～356 の 該当生薬のペ ージ	315, 319, 320
4	植物生薬② 根を用いる生薬 1	黄芩、遠志、葛根、甘草等の基原植物、薬用部位、 産地、薬効等	p 131～356 の 該当生薬のペ ージ	315, 319, 320
5	植物生薬③ 根を用いる生薬 2	地黄、芍薬、当帰、人参等の基原植物、薬用部位、 産地、薬効等	p 131～356 の 該当生薬のペ ージ	315, 319, 320, 322, 324
6	植物生薬④ 果実・種子を用いる生 薬	茴香、杏仁、莫茺萸、大麻等の基原植物、薬用部位、 産地、薬効等	p 131～356 の 該当生薬のペ ージ	315, 319, 320, 324
7	植物生薬⑤ 根茎を用いる生薬 1	黄連、生姜、川芎、大黄等の基原植物、薬用部位、 産地、薬効等	p 131～356 の 該当生薬のペ ージ	315, 319, 320, 324
8	植物生薬⑥ 根茎を用いる生薬 2	半夏、白朮、附子等の基原植物、薬用部位、産地、 薬効等	p 131～356 の 該当生薬のペ ージ	315, 319, 320, 321, 324
9	植物生薬⑦ 葉や全草を用いる生 薬	ゲンノショウコ、センナ等の基原植物、薬用部位、 産地、薬効等	p 131～356 の 該当生薬のペ ージ	315, 319, 320, 324
10	植物生薬⑧ 樹皮を用いる生薬	黄柏、キナ、桂皮、厚朴等の基原植物、薬用部位、 産地、薬効等	p 131～356 の 該当生薬のペ ージ	315, 319, 320, 324
11	動物生薬・鉱物生薬	熊胆、牛黄、竜骨、牡蠣等の動物生薬、鉱物生薬	p 357～376 の 該当生薬のペ ージ	315, 319, 320, 324
12	医薬品抽出原料生薬	ジギタリス、ラウオルフィア、ロートコン、キジュ、 ニチニチソウ等の医薬品原料生薬	p 131～356 の 該当生薬のペ ージ	315, 319, 320, 322, 324
13	副作用や使用上の注 意が必要な生薬	甘草、麻黄、大黄、附子等の副作用や使用上の注意 が必要な生薬	p 131～376 の 該当生薬のペ ージ	319-321, 324
14	法的に規制される生 薬	アヘン、コカヨウ、大麻等の基原植物、薬用部位、 産地、薬効等	p 131～356 の 該当生薬のペ ージ	318-320, 324
15	まとめ	まとめの講義		
16	定期試験			

注) 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

*到達目標番号と到達目標の対応は、巻末のコアカリ SB0 番号/項目対応表を参照して下さい。